

# YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY



横浜旭ロータリークラブ

2024-25年度 RI 会長 / ステファニー・アーチック  
RI.D2590ガバナー / 長戸はるみ  
横浜旭RC会長 / 北澤 正浩

ガールスカウト  
とクリーン作戦



第11回 チャリティーコンサート

国際ロータリー第2590地区

## 横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33 / 〒241-0836  
TEL.080-1215-6668 / FAX.045-362-0024  
<http://yokohamaasahirc.org>  
Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川駅ジョイナステラス3 / 4Fコミュニティサロン  
例会日 月 3 回水曜日 / 12時30分 ~ 1時30分

2024年11月6日 第2560回例会 VOL.56 No.13

■司会 SAA 関口 大樹

■開会点鐘 会長 北澤 正浩

### ■出席報告

|        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 会員数    | 21名    | 本日の出席数 | 13名    |
| 本日の出席率 | 65.00% | 修正出席率  | 85.00% |

### ■本日の欠席者

福村、草柳、中谷、二宮、佐藤（真）、宋

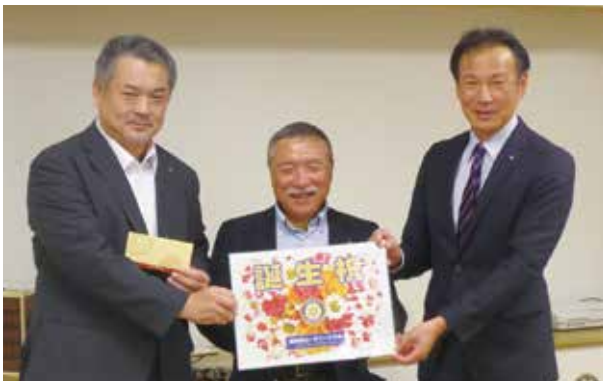
### ■ビジター

鈴木慎二郎様（地区R財団副委員長、川崎マリーンRC）

### ■誕生日祝

安藤 公一会員 11.4

佐藤 勉会員 11.18



### ■会長報告 北澤 正浩

皆さん、こんにちは。11月に入り穏やかな気候を期待しておりましたが、朝夕は少しずつ冷え込んできたものの、昼間には25度近くま

で気温が上がる日もあり、なかなか秋らしい涼しさを感じさせてくれません。春夏秋冬が織りなす日本の気候が、徐々に変わりつつあることを感じ、不安を抱かずにはられません。気候変動がこれ以上深刻化しないことを願いながら、私たち一人ひとりが環境のためにできることを考え、行動に移していくべきだと深く考えてまいります。

さて、今月はロータリー財団月間です。本日は、鈴木さんによるロータリー財団フォーラムを楽しみにしております。どうぞよろしく願いたします。

皆さまご存知の通り、ロータリー財団は、ポリオ根絶や健康促進、教育支援、さらには環境保護に至るまで、世界各地で幅広いプロジェクトを展開しています。この活動の基盤を支えているのは、私たちロータリアン一人ひとりの支援に他なりません。

しかしながら、財団の運営資金は、会員からの寄付やイベントの収益に依存しています。そのため、少子高齢化が進む日本において、会員の減少もあり、将来的に安定した資金を確保する方法を模索することが、今後ますます重要な課題となってくるでしょう。

財団への寄付を皆様をお願いしておりますが、『自分の寄付がどんな意味を持つのか』と疑問に持つ方もいらっしゃると思います。ですが、一人ひとりの小さな支援が、世界のどこかで生きる力に変わる、そんな素晴らしい循環を生み出すのがロータリー財団の力だと思います。どうかご協力をよろしく願いいたします。

## ■幹事報告

市川 慎二

▷例会臨時変更のお知らせ

### ○横浜田園 RC

・11月26日(火)→11月27日(水)

山内中学校職業講演会 12:30～

・12月17日(火)→クリスマス夜間例会 18時点鐘

・12月31日(火) 休会

### ○新横浜 RC

・11月29日休会

・12月20日(金)→19日(木)クリスマス家族例会

## ■指名委員会

市川 慎二

今年度、理事候補者指名を拜命しました市川です。

10月29日に第2回目の指名委員会を五十嵐・安藤・北澤・岡田・市川が出席して開催致しました。

本日の11月第1例会までに、次年度の副会長を含む、理事役員の候補者を報告致しました。

今年度は11月20日の夜間例会が11月最後の例会となりますので、2週間前とはなりますが、その時点で会長から発表し、公示という形になりますのでご了承ください。

尚、立候補の希望は特になかったことを報告致します。

## ■中島 徹会員入会式

### ▶歓迎の辞／北澤会長

中島 徹さんを横浜旭ロータリークラブ会員並びに世界のロータリアンの仲間としてお迎えすることが出来ました。心より入会を歓迎いたします。誠にありがとうございます。

ロータリークラブは会員が異業種を通じて親睦を深め、職業の倫理を高め、切磋琢磨して地

域社会並びに国際社会に奉仕を通じて貢献する団体です。ロータリーを理解し友人と職業を通して末永くロータリーライフを楽しんで頂きますようお願い申し上げます。

今後の活躍を期待申し上げて、歓迎の言葉に代えさせていただきます。おめでとうございます。



### ▶中島会員

皆さんこんにちは、ジャパンウェルスアドバイザー(株)の中島と申します。

現在旭区本宿町に家族4人で暮らしております。職業は金融商品仲介業をしております。

私がロータリークラブに入りたかった理由は3つございます。1つは、私自身子供たちが育つ旭区という街で、未来に向けた投資活動が出来ないかということを考えました。もう一つが、職業上地域の人脈というものを拡大していきたいということ、3つ目が2020年の新型コロナによるパンデミックが発生した以降、今後恐らく災害なのか地震なのか、再び災害があった際に、地域の見えない絆を作ることがすごく重要になってくるのではないかと感じたところです。この3つが入会をさせて頂きたかった理由です。

まだ、40歳という若輩ですが新入社員の頃を思い出して一から頑張って参りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。

### ■前年度幹事

岡田 隆

本日23-24年度の活動報告書を配布させていただきます。

## ■親睦委員会

田川 富男

クリスマス家族親睦会のお知らせ

12月14日土曜日 18:00~21:00

今年もクリスマスの季節がやって来ました。今宵はご家族の皆様と親睦を深めるために、素敵なクリスマスパーティーを企画しました。是非ともお誘い合わせて参加してください。

【場所】KKR ポートヒル・横浜 4F

横浜市中区山下町 115 番地（港の見える丘公園隣）

みなとみらい線元町中華街より徒歩 10 分

【電話】045-621-9684

【内容】落語・ゲーム・ビンゴ大会

今回は神奈川近代文学館で開催される「イタリアの防災事情を聴く講演会」の後にクリスマスパーティーを企画していますので、続けての参加も可能です。ご友人、知人でもご家族様と同様にご出席を歓迎します。

## ■ニコニコ BOX

鈴木慎二郎／お世話になります。本日はいつもと違うロータリー財団のお話をさせていただきます。

北澤 正浩／①中島徹さん、入会おめでとうございます。②川崎マリーン RC、地区 R 財団副委員長鈴木慎二郎様ようこそ。

市川 慎二／①川崎マリーン RC 鈴木様、本日の卓話よろしく申し上げます。②中島さん入会おめでとうございます。

安藤 公一／①鈴木様、本日の卓話宜しくお願ひ致します。②誕生日祝いありがとうございます。③祝！横浜 DeNa ベイスターズ日本一。④関東大学ラグビー対抗戦で早稲田が帝京に 4 年振りに快勝しました。⑤中島さん入会おめでとうございます。

新川 尚／①鈴木ロータリー財団委員会副委員長、本日の卓話宜しく申し上げます。②中島さん、入会おめでとうございます。

佐藤 利明／①久し振りの例会出席です。ご無沙汰がちで申し訳ありません。②中島徹さん入会おめでとうございます。

五十嵐 正／①川崎マリーン RC の鈴木様、本日の卓話よろしく申し上げます。②中島様、御入会おめでとうございます。ロータリーライフを楽しんでください。

岡田 隆／ロータリー財団副委員長鈴木様、本日の卓話よろしく申し上げます。②中島さん入会おめでとうございます。

目黒 恵一／①中島さん入会おめでとうございます。②財団フォーラム鈴木様ようこそ！

佐藤 勉／①川崎マリーン RC 鈴木様、本日の卓話よろしく申し上げます②中島さん、入会おめでとうございます。今後ともよろしくお願ひします。③誕生日祝いありがとうございます。

## ■ロータリー財団と平和について

川崎マリーン RC 鈴木慎二郎様



11 月はロータリーの特別月間です。ロータリー財団は国際ロータリーのロータリー財団としてロータリーの使命を実現化する行動を世界中に向けて発信しています。これにちなんでロータリー財団と平和について皆さんと考えてみたいと思います。

まず特別月間を改めて紹介しておきます。ロータリーの特別月間はクラブだけではなく、ロータリアン、一人一人がロータリーの活動に参加するよう強調するために国際ロータリーが指定した月間のことです。このうちの 7 つは皆さんもご承知の 7 つの重点分野が起因するものです。また 9 月のロータリーの友と、10 月の米山は日本独自のテーマとして設定がされてい

ます。

ロータリーと平和について考えるとき、なぜ、ロータリーが平和にこだわるのか、そして守ってきた原動力が何なのかを振り返ると、その原点はロータリーの使命につながっていることを改めて認識することとなります。

ロータリーの使命とは、職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて、人びとに奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進することである（ロータリー章典 26.010.1）。

要は私たちロータリアンがロータリー活動で学んだ人格、スキルを発揮して地域社会に職業や社会貢献を通して最終的には平和推進を図っていくということです。平和推進というと扇要に聞こえるかもしれませんが、平穏な世の中を維持していくことでさえ大変な、労力がかかる世の中ですから、当たり前のことを当たり前のように行っていくことは本当に大変です。

まずはロータリー財団がかかわってきた平和に関するプログラムや出来事を探っていきたいと思います。国際ロータリーが設立された時代背景から見てみますと 1905 年は南北戦争終結後、急速な都市の発展と成長の中、貧富の格差は広がり、商業の基盤となる信頼も混とんとした時代でした。その中で信頼のおける仲間を求めて生まれたロータリークラブはその後、互恵組織からの脱却を行い、徐々に地域社会、そして世界に向けてその活動の幅を広げていきます。

1917 年には遂にアメリカが英国、フランスと共に連合国を形成してドイツに対して宣戦を布告し、多くの若者が戦場に送られていったのです。同年のアトランタ国際大会でアーチ・クランプ会長が「国際理解の為の教育基金」の決議を行いました。教育基金制度の基本概念は「戦争は国と国、人と人との無理解に根ざして起るものであるから、世界中の若者の国際理解を推進することから、次の戦争への道をとぎす努

力をしよう」というものです。世の中が戦争参入へと傾倒する中、ロータリーは形を変えて戦争終結への努力を続けていたことは忘れてはならないものだと思います。この教育基金制度が今日のロータリー財団となって、ロータリーの国際奉仕プログラムとして、大きな役割を演ずるようになるまでには、まだまだ幾多の変遷を乗り越えていくこととなります。ロータリーは平和について国家やイデオロギーとは乖離したロータリーの平和感をもって行動をしていることがわかります。その足跡について日本のロータリーと平和の関わり合いの話をしたと思います。



1914-15年度  
フランク・L・マルホランド  
Frank L. Mulholland  
(米国・トレドR.C.)

ロータリーの奉仕の理想に結ばれた実業人専門職業人の世界的な友情をもって国際間の理解と善意と平和とを推進しよう

ロータリーの基礎を築いた貢献者の 1 人といわれる、トレド R・C 会員のフランク・L・マルホランドが、(1930 年) R・I 会長代理として来日し、当時 70 地区となっていた日本の年次大会に出席して雄弁を振るった記録が残っています。彼は現在のロータリー綱領の 4 番目に掲げてある『ロータリーの奉仕の理想に結ばれた実業人専門職業人の世界的な友情をもって国際間の理解と善意と平和とを推進しよう』との趣旨を強調して、年次大会に参加した日本のロータリアン達を魅了したといわれています。

1930 年は昭和 5 年に当りますので、満州事変、支那事変など日本は激動期に突入しつつある時代でした。マルホランドは大会に出席した後も、引き続き日本に滞在して、各クラブを歴訪し、京城から奉天にまで足をのぼして、ロータリーの理念を熱心に説いてまわりましたので、当時の日本のロータリアンは彼によって

大いに啓発され、学ぶところがあったともいわれています。このようなアドボカシー活動を国家に属さない一民間団体が積極的に行っていたということです。これらの詳細は福岡西 RC の HP で掲載をされておりますので是非、ご覧ください。

この後、時代は第 2 次世界大戦へと突入し、日本のロータリークラブも暗黒の時代を迎えることとなります。戦争が激化する中で軍部の圧迫はますます苛烈となり 1940 年には国際ロータリーからの離脱を余儀なくされ、国内の各ロータリークラブも遂には解散へと追い込まれていきます。解散後も例えば東京、京都の水曜会、大阪の金曜会、神戸の木曜会、福岡の清和会などのように、名称を変えて依然として会合を開いていたこと、しかもそれが日本の全国各地で同様な懇親社交のクラブとして存在した経緯など、多くの先達たちが何とかしてロータリーを守っていつてくれたことが、今日、我々の活動につながっていくこととなります。半面、この活動が地域の経済活動の一端を支える重要な組織として機能し、当時の軍部の協力団体とみなされてしまったことでその後の国際ロータリーへの復帰に重き足かせとなってしまったのは因果なことでした。

終戦の翌年、1946 年から日本のロータリークラブは国際ロータリーへの復帰を念頭に GHQ にはたらきかけを始めます。しかしながら前述の理由を始めとして次期尚早との声は大きく、時間だけが費やされていきます。

そして 1948 年 9 月、時の R・I 会長・アングス・ミッチェル（豪州メルボルン RC）は事務総長ジョージ・ミーンズに日本のロータリークラブについての復帰に関する調査を指示します。命を受けたミーンズは来日し、事細かな報告書を作り、時期尚早であるなどの意見のあった当時の RI 理議会を説得し、日本のロータリーが国際ロータリーへの復帰を果たしたのは 1949 年 3 月のことです。ちなみに R・I では日

本ロータリーの地位回復を『復帰』といわず『再建』と表現しているようです。この功績により、アングス・ミッチェルは勲 3 等旭日章を褒章されました。こののち東京、京都、大坂、名古屋、神戸、福岡、札幌の 7 クラブが先ず認承されて、国際ロータリー第 60 地区と称されました。その年のうちに横浜、今治、高知、広島、西宮、徳島、岡山、函館、小樽、熊本、新潟、四日市、岐阜の 13 クラブが承認されています。

もう一つ、特筆すべきことがあります。日本が戦後復帰をしたのは 1951 年 9 月のことです。サンフランシスコ平和条約を締結・発効にすることにより、連合国による占領は終わり、日本国が主権を回復したのは日本の国際ロータリー復帰 2 年後のこととなります。国よりもなお早く、日本のロータリーが世界に復帰したことは私たちにとっても誇らしい歴史の 1 ページではないでしょうか。このような状況の中で、R・I は遂に 1961 年 5 月に東京において国際大会を開催することが決定致しました。しかもこの国際大会には世界 74 ケ国の RC から 2 万 3366 名というロータリアンが参加して、それまでに行なわれた大会の記録まで破ってしまう盛況なものとなったのです。この大会には、天皇、皇后両陛下のご陸席を賜り、そのスピーチの中で陛下はこう述べられました。

『ロータリーの会員が創立以来奉仕と友愛とを目標として人種、宗教、国境をこえて友好を重ね、国際理解を深める上に多大の寄与をしてきたことは喜びにたえません。今回この大会がはじめてアジアで開かれ、かつ参会者が当初の



予想をはるかに越えたことは、日本に対する関心と友情のあらわれとして誠に意義深いものがあります。わたくしはこの大会がロータリーの輝かしい歴史と、高い理想のもとによくその成果をおさめ、会員相互の友情と信頼がますます深まるとともに、国際間の協力を推進して、国民ひとしく要望する世界の永久の平和の確立に費献することを切に希望します。

このように様々な思いと出来事の中で日本のロータリーは自らの行動を律し、また世界のロータリアンに支えられ今日に至ってきたのです。ここで平和を推進するためにロータリーが設立したプログラムをご紹介します。

### 地区補助金事業

- > 上限3000ドル
- > 地区裁量により決定
- > 同事業の支援先は原則的に毎年変更が望ましい
- > ロータリーが支援先の財布にならない事



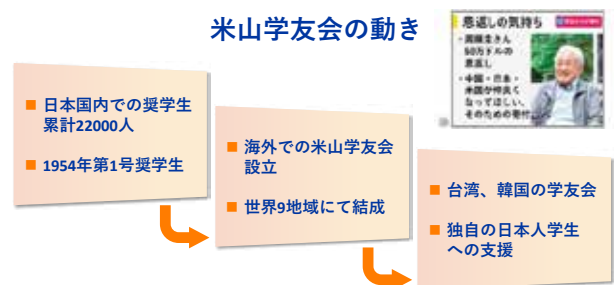
まずはロータリー財団の地区補助金とグローバル補助金です。平和を推進するのに地区補助金？と思われる方もおられるでしょうが、補助金を使って小さな幸せが広がればそれは周囲に広がってきます。もう少し大きなグローバル補助金の7つの重点分野もこれを維持、改善することで地域の安定が担保され、大きな目で見ればその集合体が社会に広がり、国、世界へと広がり、それが、平和構築へのパーツとなるのではないのでしょうか。

また2021年より始まった大規模プログラム補助金は200万ドルをロータリーが、そして共同出資者として国際協力NGOのワールドビジョンUSとビル&メリンダゲイツ財団が協力をして総額600万ドルの補助金を提供してザンビアにおけるマラリア根絶のためのコミュニティーケースワーカー2,500人の訓練とマラリア根絶のための支援に使われます。マラリアはHIV、結核に次ぐ感染症です。この病気の最

大の原因は貧困であり、医療従事者の不足が最大の原因とされています。その貧困の原因は治安・経済の悪化など様々な要因が重なっており、重点分野に大きくかかわっています。そしてこれらの社会貢献活動と同様に平和構築の強力なピースが国際親善ではないでしょうか。国際親善についての取り組みをお話しましょう。

まず始めが日本のロータリーが生んだ米山記念奨学会です。不幸な戦争を教訓に二度と戦争を起こしてはならない、アジア周辺の学生を支援し、将来、母国と日本の架け橋となってもらい、国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的として米山記念奨学会は設立されました。当初は戦後補償の体を少なからずなしていたと思われませんが、現在は公益社団法人として勉学・研究のために在留する私費外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンから寄付金を財源に奨学金を支給し、支援する民間最大の奨学財団となりました。学友会も日本では33団体、海外では韓国・台湾・中国・タイ・ネパール・モンゴル・スリランカ・マレーシア・ミャンマーなどに設立されています。台湾・韓国では日本の学生に対する奨学金支援など、独自の活動がなされています。

一昨年87歳になる米山奨学生の周順圭（中国出身）さんが世話クラブの東京世田谷ロータリーを訪れ、個人として50万ドルの寄付を申し出ました。今日の為替レートですと約6750万円です。周さんは1958年来日、東京工業大学を卒業後東京大学で工学博士の学位を取得し渡米、半導体の専門家としてシリコンバレーのハイテク業界では広く知られている人物との



事です。生まれ育った中国、専門教育を受けた日本、そして仕事での成功を取めたアメリカへの恩返しの気持ちを込めたの寄付との事です。

つづいてロータリー財団の平和センタープログラムです。2002年度に創設された紛争解決のための国際的リーダーを育てることを目的に毎年、世界中で100名の人材が選出され世界7か国、8大学に設置されたロータリー平和センターで研究を行っています。2025年1月にはトルコ・イスタンブールにあるパチェシェヒシュ大学に新たなロータリー平和センターが設立されることが決まりました。

### 奨学金の種類

| 『グローバル補助金奨学生』              | 『地区補助金奨学生』               |
|----------------------------|--------------------------|
| ✓ 専攻は7つの重点分野に限られる          | ✓ 専攻分野は自由                |
| ✓ 大学院レベルまたは研究を1~4年間支援      | ✓ 大学3年生以上から大学院レベルの1年間を支援 |
| ✓ 1人当たり30,000~50,000米ドルの支給 | ✓ 1人当たり~27,000米ドルの支給     |

そしてロータリー財団のグローバル補助金・地区補助金による奨学生プログラムがあります。7つの重点分野に特化する研究や学問から芸術に亘る研究や学業研鑽を海外で目指す学生たちの奨学金事業です。このプログラムの前身は国際親善奨学プログラムで名称変更となりましたが、現在もまさに親善大使の役目も担っています。事業開始以来、当地区の奨学金学友は380名を超えました。

また今年度も第3回目となる学友たち主催のアカデミック講座が開催されました。これは留学を目指す次世代の一般学生に対して自らが経験した話や研究内容などを聞いて頂くミニ市民大学のような取り組みです。その他にも留学ラジオなど新たな取り組みを始めています。学友自らが自主的に行動を起こし、活動を始めた意義は大変、大きなものだと思います。まさに皆さんからの浄財が成果として地域社会に還元されてきた始まりと言えるのではないのでしょうか。

同じく、青少年交換プログラム (YE) も同様

の側面を持っています。素晴らしいプログラムであり、青少年の人格形成期には是非とも、経験してもらいたいものではありませんが、学生の若さからかこの親善大使の意味をしっかりと理解していない学生が、残念ながら、世界では散見されます。プログラムの意義をしっかりと学んだ上で経験を積んでももらいたいと切望しています。この青少年交換プログラムと RYLA・青少年指導者養成プログラムは国際ロータリーの正式なプログラムであることも覚えておてください。(その他、補助金・ロータリー地域社会共同体・平和フェロシップ・奨学金など)

日本のロータリーが起点となってロータリーで取り上げたプログラムはいくつかあります。前述した米山記念奨学会は他地区合同プログラムとして現在、大きな成長を遂げています。そして国際ロータリーの第一優先事項となったポリオプラスです。ポリオは東京麹町ロータリークラブの山田彝(つね)会員、その後任の峰英二会員らによる献身的なポリオ根絶運動が国際ロータリーの最重要プログラムへと取り上げられ、現在に至っています。その素晴らしき功績を是非、ホームページや文献を紐解いてご覧ください。

あと一つがバギオ基金です。1903年。ロータリーが出来る2年前、日本人労働者125名がフィリピンのバギオ山頂に続くベンゲット道路建設工事のために集まりました。難工事の末、無事完成し、残った人達は現地の人と結婚してフィリピンにしっかり根をおろし、各地に豊かな邦人社会を形成しました。延べ2000人の日本人労働者が工事に関係し約700人の人が犠牲になったと言われていています。太平洋戦争の時、日本軍はフィリピンに60万人が上陸しました。生還したのは10万人でした。その最後の激戦地がバギオでした。バギオには日系フィリピン人が大勢いたので、壊滅直前の日本軍は、日本語が出来、日系人である彼等に協力させたのです。日本軍の敗戦後、彼等日系フィリピン人は、日本軍に協力した事で現地住民の迫害を

受け、自分が日本人であることをひた隠しに隠し、バギオ山中に逃げ込んで生活をしていました。1972年マニラのマリア宣教者フランシスコ修道会に赴任したカトリック修道院シスターテレジア海野が知り、自ら山中に分け入り一人一人救出されたのです。救出された日系人も山中に住んでいたのですから、学校はありません。彼等の一番の希望は自分たちの子供を学校に入れ、教育を受けさせる事でした。

1977年東京城西 RC 神田会長がフィリピンにてシスター海野の活動を知り資金協力を実施しました。その希望を叶えるべく設立されたのが育英資金・バギオ基金です。その後、2750地区7クラブの参加のもと基金が設立され地区独自のプログラムとして継続・運営がされてきました。1994-95年度には地区提唱の WCS 事業として RI 会長に報告されました。その後、米山に続く財団法人化を目指した同基金は2009年7月より財団法人として生まれ変わったのです。

現在はフィリピンにおける日系及び一般青少年の為に育英資金を提供し、勉学の援助、日本への留学支援と日比両国の親善友好と増進を目的に運営されています。

もう一つ国連とロータリーについてのお話をしてみたいと思います。

ユネスコで知られる国際連合教育科学文化機関は1942年21か国のロータリークラブがロンドンで集まって教育科学文化を向上させるアイデアを検討したロータリー大会がきっかけとなってその後に発足されたものです。

また現在の国連憲章草案作成に当たり49名のロータリアンが起草し貢献を致しました。以来、冷戦がはじまるまでの間、国連をロータリーは強く支持していたそうです。その後、政治的関与を避けるロータリー方針により、国連への参加は低下していきました。ロータリーと政治、宗教は無縁となっています。しかし平和や疾病予防、水と衛生、教育といった分野についてロータリーはむしろ積極的に運動を展開しています。

世界ではウクライナに限らず、多くの紛争がアフリカやアジア、中東などでも多発しているのが、実情です。私たちが全ての紛争に対して手を差し伸べることはできないかもしれませんが、人道的支援の見地に立ってできる範囲のことに協力することは政治的見地とは無縁であり、ロータリーの唱える平和推進に合致するのではないのでしょうか。ウクライナに限らず、支援を求める手が上がれば応えていきたいと考えます。これが外向きの平和推進とすれば内向きの平和推進があります。それは私たちを取り巻く地域や、もっと小さく言えば仲間や家族のことです。思いやりの気持ちを持つ、行動する時に相手のことを思う気持ちを忘れないことが、最も大切なことかもしれません。私たちロータリアンが、ロータリアンらしい生き方を貫けば、それが、家族を、会社を、仲間を通して、地域で、社会で、もっと広い世界で広がりを見せていくのではないのでしょうか。

今日の話の中でロータリーにとって平和はかけがえのない原点の一つであり、それを守るために多くの先人たちが汗をかき、継承してつないでいくたゆまぬ努力をし、その結晶が多くのプログラムを生んできたのではないのでしょうか。

ステファニー・A・アーチック会長はロータリーのマジックとはロータリーやロータリー財団の活動を行うことで新たなマジックが生まれるものと話されています。ロータリーのマジックもってより良き社会を、そして世界の平和をもたらすために私たちがロータリアンとして何ができるのかを改めて考えていきましょう。ご清聴ありがとうございました。

#### むすびに…

**ロータリーそしてロータリー財団の最終的な願いは世界平和です。**

ロータリーのプログラムを通して平和構築の活動を支えていくこと

そして我々を取り巻く家族、従業員、仲間、から始まる地域、そして社会の平穩の維持のための行動…つまりロータリアンとして行動すること



ロータリーのマジック



継続と変化のバランスをとった効果的なプログラムを